



## 今冬の東京栄養サミット 2021 開催に向けて

### SDGs と栄養がテーマの企画展・パネル展がはじまります

JICA 中部が運営するなごや地球ひろばでは、企画展・パネル展「セカイ+栄養展」を開催いたします。JICA が国際機関や民間企業、自治体、NGO と実施する栄養不良に対する協力を約 100 点の写真・パネルを通じてご紹介します。是非ご来館いただき、ご取材・情報掲載のほどお願いいたします。

【取材可能期間：開催期間中(11/25～4/17)】

#### 世界が直面する栄養問題は、飢餓だけではありません

世界ではいまだに多くの方が栄養不良の状態にあります。必要な栄養が不足している「低栄養」だけでなく、過剰に摂取している「過栄養」も栄養不良なのです。5 歳まで生きられない子どもの 45% が低栄養に関係している一方で、生活習慣病などを引き起こす過栄養が世界で増加し、人間の生命・健康に大きな影響を及ぼしています。

#### 日本の経験が世界の栄養不良対策に活かされる

日本はこれまで、時代にあわせた栄養政策を実施してきました。第二次世界大戦後には食料不足に悩まされ、国際機関などから多くの支援を受けました。学校給食や地域での栄養指導などによる協力を得たことで、早期に低栄養の解消を実現しています。2021 年 12 月 7 日・8 日開催の「東京栄養サミット 2021」では参加する各国政府、国際機関、市民などが、栄養不良に苦しむ人びとを一人でも減らすための具体的な誓約を発表するとともに、相互の連携を深めることを目指しています。

**企画展内容例 日本から世界へ。日本生まれの母子手帳が母と子の健康を継続ケア。**


【写真 左:ガーナで母子手帳を使う母親たち、右:世界各国版の母子手帳】

日本で1948年に始まった母子手帳。毎年、世界で生まれる赤ちゃんとその母親のうち7組に1組が母子手帳を使っています。JICAはこれまで34か国で母子手帳の導入・普及に協力してきました。

**パネル展内容例 愛知県出身・在住のJICA海外協力隊経験者の奮闘！**


【写真 左:ウガンダの農村部で稲作の普及活動を行った稲葉さん、右:エアロビクス隊員としてトンガへ派遣された旭さん】

展示と連動したイベントとして12月12日(日)には、JICA海外協力隊経験者をゲストスピーカーに迎え、ザンビアで行った栄養不良に対する活動の体験談をお話します。また、JICAが作成したワークショップ教材を用いて、買い物ゲームで世界の栄養問題を楽しく学びます。

**【展示概要】**

展示期間：2021年11月25日(木)～2022年4月17日(日) 入場無料 開館時間：10:00-17:00  
 休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館日)、年末年始(12/29-1/3)、3/5 (設備点検のため臨時休館、荒天の場合は3/12が休館)

**【本件に関する問い合わせ先】**

JICA 中部 市民参加協力課 吉田・秋山  
 TEL：052-533-0220 (代表) e-mail：[cbictpp@jica.go.jp](mailto:cbictpp@jica.go.jp)